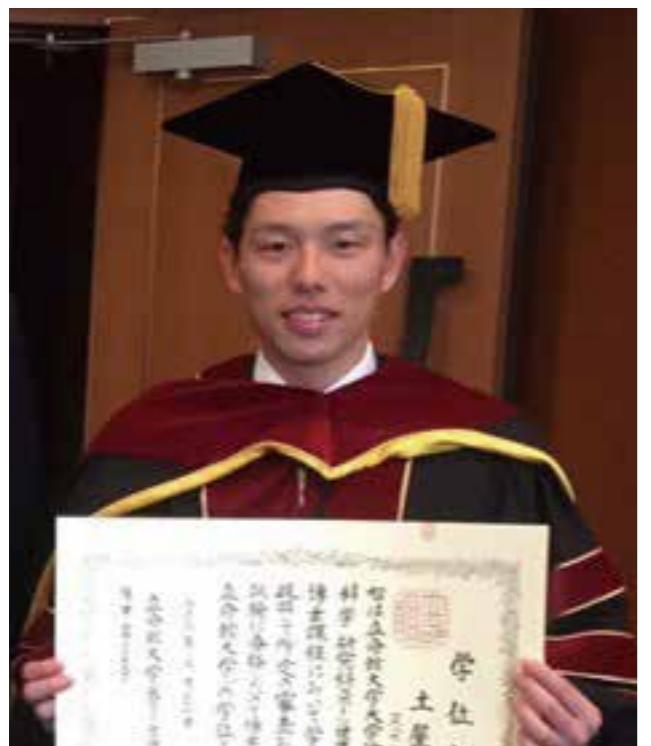


私の考える
スポーツ健康の
博士力

スポーツ健康科学の
体系的理 解の醸成



“脂肪燃焼を促す骨格筋由来タンパク質”を増やしたい

デンマーク ビスペビア病院 博士研究員

土屋 吉史



let's access



この QR コードを読み取ると
インタビュー動画を
視聴することができます



この QR コードを読み取ると
博士学位論文に
アクセスできます

学位授与の年月 2016年3月

学位論文のタイトル 一過性の運動に対するイリシンの
分泌応答に関する研究

指導教員名 後藤一成

研究領域 トレーニング科学

キーワード 運動・マイオカイン・イリシン

学位取得を
目指した
きっかけ

夢 ある職業「研究者」になりたいと思い、学位取得を目指しました。修士過程修了後は高校教諭として働くことを考えていましたが、自分の将来が容易に見通せてしまうことの虚無感に襲われたことと（自分の場合はです）、内分泌にもともと関心があったこともあって立命館大学の「Kazushige Goto」ラボで博士課程進学を決意しました。また、2012年に出会った論文（脂肪燃焼を促進する骨格筋由来タンパク質の発見）も、決断の後押しになりました。筋トレ中に自分の骨格筋を見つめてください。そして筋肉からたんぱく質が放出されて他臓器にメッセージを送っていることをイメージしてみてください。神秘的でワクワクしませんか？

在学中

幸 せなことに、日本全国から集まった同じ志をもった仲間と共に毎日研究活動に時間を割くことができていました。私は博士課程の後期課程から立命館での研究活動をスタートしたので、最初はストレスフルな生活でしたが。自分に知識と解釈の力が備わったと感じるたびに自信を得て、楽しめるようになっていきました。言語習得と一緒にです。もっと沢山、当時の仲間と話せばよかったと後悔もありますが、彼らとは今でも連絡を取り合う間柄で、個々の専門分野の特徴を活かして近いうちに共同研究など実施したいと思っています。在学中に論文を通すことができたことは、指導教員だった後藤一成先生の、研究計画立案から論文受理までの丁寧な指導とバイタリティに由るところが大きく、今でも大変感謝しています。

現在

幸 せの国、デンマークにある病院にて勤務しています。デンマークに来る前、学位取得後はスポーツ健康科学領域から離れて、骨格筋の筋線維上に居る幹細胞の研究に取り組みました（熊本大学 発生医学研究所）。最初は立命館大学に来た時と同様に、ミーティングの内容など全く理解できませんでしたが、学部生のように Baby step で分子生物学に徐々に慣れていきました。日本語でこれらのスキルを獲得することができたことは大変有意義なことでした。現在は、「腱分子生物学」が主な専門分野になります。日本で学んだ骨格筋分子生物学的手法を武器に、現在のラボでしか得られないスキルを融合させて自分のアイデンティティを活かした仕事に挑戦しています。デンマーク語は挨拶しか知りません。

将来像

細 胞からヒトに至るまで、様々な分野をカバーすることができる点が自分の強みであり、私に課せられた研究者としての命題だと思います。将来は、沢山のがん患者や難治性疾患者を救えるような研究成果を挙げたいです。また生涯の目標は、自分の研究成果が実際にヒトを救うレベル（創薬など）にまで到達するところをめざします。これが達成されたらいつ死んでも悔いはありません。あとは、若いうちにできるだけ、温めている研究アイデアを片っ端から試し、実験の欲求を満たしたいです。

誠実に、丁寧に、”良い仕事”を。